かったよ。ありがとう。先生はもう少し体育館の整理をしていくから，先に帰っていいよ。気をつけて帰りなね。さようなら　」

A「……」（ぴょこんとおじぎをして，元気よく走って行った。体育館の入り口で，こちらを振り向きながらもう一度おじぎをした。少し口を動かしたように見えたが，はっきりしなかった。）

このようにしてA子との共同作業を多くしていった結果，担任との会話ができるようになってきた。以下は，初めて会話ができた時のやりとりである。

T「音楽室で明日の音楽の時間に弾く曲を練習したいんだけど，ちょっと教えてくれないかな？」

A「……」（黙ってうなずく。）

T（曲を弾きながら）「ほら，ここのところがわかんないんだよね。A子さん，ちょっと弾いてみてくれる？」

A（椅子に座って弾き始める。）

T「じょうずだね！なるほどそんなふうに弾くのか。どれどれもう一度弾いてみるか　」

T「あれっ，また間違った。おかしいな。どうも左手の指使いがおかしいな。こうか？いや違うな，こうか？」

A「先生……」（ほとんど聞き取れないような小さな声で）

T「ん？」（やった！と思ったが，後ろを振り向かないで）

A「小指が……」（と言いながらピアノの鍵盤を後ろから指す。）

T「ああ，こうかあ！できた。できた。A子さん，ありがとう。やっとわかったよ。A子さんに頼んでよかったなあ　」

・　休み時間

一人でいるA子にさりげなく近寄って，一緒に同じ方向を見ながら話しかける。

T「体の具合でも悪いの？」

A「いいえ　」

T「じゃ，先生と一緒に外に出て遊ぼうか。」

A「はい，でも……」

T「みんなが待ってるよ。さあ，行こう　」

A（でもと言いながらも一緒について来た　）

T「みんな，A子さんと先生も一緒にやるぞー　」

C（ドッジボールをやっていた学級の子供たちは，快く仲間に受け入れてくれた。）

A（初めは表情も硬かったが，動いている間に和らいできた。）

・　授業中

机間指導の時も席のそばで小声で話しかけた。この時はA子の返事を期待しないで，良いところをほめ，自信をつけさせていった。

・　通知票

A子が気にしている発表力がないとか，おとなしいとかには触れないで，良い点や伸びた点を認め励ました。

A子とのラポールの形成を図りながらかん黙の改善を目指してきたが，A子が「話したこと」については，「よくしゃべったね　」とか「よかった　」とかは言わないようにした。これは，A子に心理的な負担をかけないようにするためである。

(2)　学級全体への指導

・　学級の子供たちに思いやりの気持ちを持たせるために，折りにふれて思いやりの大切さについて話すとともに，子供の思いやりのある行動を積極的に取り上げてほめたりした。また，担任自身も子供たちに「かぜひいたの？無理しないで，調子が悪い時は早めに言うんだよ　」などと，温かい言葉をかけるよう